

「いいたて結い農園」のエゴマの実やエゴマ油は、道の駅までい館で販売している他、ホームページからも注文できます。



いいたて結い農園
ホームページ



大きく育ったエゴマの刈り取り作業。この日の収穫作業には福島大学の学生が参加。収穫したエゴマは乾燥させてから実を外し、まていな手作業を経て商品化されます。

「つながる」農地は、里山の景色の美しさや、まていな農業の魅力も伝え続けています。

10月の刈り取り期には、移住モニターツアー「ミチシル旅」の参加者も体験に訪れて、作業の後は地区の皆さんと畑でバーベキュー。さらには交流のある大学からも学生達が駆けつけ、作業を手伝いました。

大久保・外内地区の皆さんが協働する『いいたて結い農園』。手塩にかけて安心・安全なエゴマの栽培を行っています。

この結い農園の農地は、エゴマの栽培を通して、いろいろな「つながり」も育んでいます。

今年はずべてのエゴマが「宇宙エゴマ」。宇宙を旅して帰還した飯館産のエゴマを、村の子ども達と播種して増やし、今年の苗は「宇宙エゴマ」から育てました。「このエゴマの物語を大切に育みたい」と話していた代表の長正増夫さん(大久保・外内)。「宇宙エゴマ」は農地いっばいに大きく育ちました。

農地を訪れる人々と共に育む物語

一般社団法人

いいたて結い農園

結い農園

「いいたて結い農園」は、協働でエゴマを栽培し、その6次化にも取り組んでいます。手作業でまていに仕上げるエゴマの実の販売の他、エゴマ油も製造していて、注文販売では搾りたてを提供しています。また、高齢者がいきいきと働ける環境を整え、外部とも積極的に交流するなど、コミュニティ活動の拠点ともなっています。



「廃材は宝の山」と大島さん。下の写真のガスボンベもバーベキューコンロへのリメイクを依頼されています。



9月に図画倉庫で開催された「ずっとまーけっと」の一角。バーベキューコンロやストーブなどのアウトドアグッズ(左の写真)が注目を集めていました。使い勝手がよさそうなシンプルな作り。丸みのあるフォルムを生かしたデザインも目を引きます。実はこれ、使用済みのガスボンベをリメイクした1点物。大島さん(関沢)が、切断・熔接・塗装をして製作しています。

大島さんは、南東北クボタ飯館営業所の所長さん。モノづくりはあくまでも趣味だそうですが、製作依頼が相次いだため、アウトドアグッズは受注販売を行うようになりました。

鉄製のインテリアグツズを販売している道の駅では、事務所のパソコンラックも製作しました。棚やベンチなどはサイズ指定の依頼も多いそう。

山田豊さんの精肉店「肉のゆーとぴあ」からは、肉を吊るすカギ(P14に写真)やカギを掛ける梁などの製作を依頼されました。大島さんの工房は只今名称を考案中ですが、山田さんからは「夢が叶う工房だね」と喜ばれたそうです。



大島 剛さん

大島剛さんのモノづくり



Instagram

元牛舎を改造した工房。スピーカーから音楽が流れています。熔接のコーナー、塗装の部屋などがあり、大島さんはここですべての工程をこなします。「こんなものがほしい」と訪ねて来る人と、あれこれ話す時間も楽しいそう。注文が集まり忙しそうですが、「ものづくりが好きだったので、いろいろやってみたくて」と楽しんでいる様子です。お問い合わせは☎090-6259-3392まで。



鉄材を加工して製作するインテリアグッズ。道の駅で販売中。